



新九郎通信



新年明けましておめでとうございます。2010 年寅年。

本年が皆さまにとって素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。

お陰様でギャラリー新九郎も今年で 14 年目を迎えました。本年も様々なジャンルでの作品展が年間を通して予定されています。新九郎企画展は 5 回、アフター 6 もより幅広く新たなご提案をしていきたいと思っています。今年も新九郎は、皆さまとアートのすてきな出会いの場となるよう、そのお手伝いをさせていただきたいと心新たにしています。本年もギャラリー新九郎をどうぞよろしくお願い致します。

新九郎 1 月の展覧会のご案内



会 期	展覧会名	見 どころ
1 / 6(水)-1 /11(月)	橋本樸々展(企画展)	今年の新春を飾るにふさわしい見ごたえある企画展です。命をかけて作品を描き続けている今年 90 歳になる作家の、みずみずしい油彩とコラージュ 50 点の展示は必見です。
1/13 (水) -1/18 (月)	ほのかの会スケッチ展	「ほ」歩く「の」飲む「か」描くことの大好きな仲間「ほのかの会」の新九郎での初スケッチ展です。メンバーの穴戸さんはギターもプロ並みの腕前です。
1/20 (水) -1/25 (月)	大漁! 小田原井展	昨年の「小田原城」に続く今年のテーマは地元小田原で人気の「小田原井」。小田原を愛する若手イラストレーターの個性の光る作品展です。イラスト、水墨、水彩など 30 点の展示
1 月 22 日 (金)	新九郎デッサン会	今年初のデッサン会。モデルは沖縄三線の衣装です。
1/27(水)-2/ 1(月)	書・絵・作陶展 ー雑踏の中でー	書と絵画 ・陶芸の新九郎初コラボレーション展です。書は「親子で声に出して読みたい論語百章」の著者、岩越豊雄 絵は新九郎木下が賛助参加しています。
1 月 29 日 (金)	ガイアシンフォニー-上映会	第 4 番、ジェームズ・ラブロック、ジェリー・ロペス、名嘉睦稔他

近隣・友の会会員の展覧会情報

会 期	展覧会名	会 場
1/ 6(水)~24 (日)	00GI 展	すどう美術館
1/ 8(金)~17 (火) 1/3 休	白石洋子 2010 初富士展	国府津よりあい処
1/ 2(土)~31 (日) 火休	草想展	はげ八鮎
12/ 1(水) ~ 1/31 (木) 12/30-1/3 休	魅惑のトイカメラ写真展	パガ-夢工房 MJC
1/ 7 (木) ~11 (月)	西ゆり会美術展	ツノダ画廊
1/14 (木) ~18 (月)	西相美術新春展	アオキ画廊
1/ 7 (木) ~18 (月)	中国文物展 PART2	山野草&ギャラリー宙
1/13 (水) ~2/8 (月)	新春富嶽展	お堀端画廊



菅野陽「聖告の天使」

ようこそ平塚美術館 平塚美術館学芸員 勝山 滋

あけましておめでとうございます。

平塚市美術館では昨年にひきつづき「祈りのかたち」と題して精神性の高い作品 53 点を特集展示しています。菅野陽は東西の天使や神仏をエッチング連作で描き銅版画集『天使と飛天と』を遺していますが、東京芸術大学出身でもあって伝統の下敷きを感じさせます。

「聖告の天使」は、シモーネ・マルティーニの 14 世紀の祭壇画をもとに、聖母マリアにキリストを身籠もったことを知らせるガブリエルを描いています。還暦を前にして版画の普及に心を砕いた作家が偲ばれます。



新春対談「暮らしにアートを」住谷美知江×木下泰徳

ギャラリー新九郎は、アートを愛する地域の方々を始め友の会の会員、作家など多くのアートファンに支えられ、お陰様で今年 14 年目を迎えることができました。本年度も楽しい展覧会が数多く予定されています。

新春対談として新九郎友の会事務局、又作家としてもご活躍の住谷美知江さんをお招きし、新九郎木下とギャラリーのコンセプトでもある「暮らしにアートを」をテーマにした対談をしていただきました。



木下 明けましておめでとうございます。本年も事務局として、友の会の運営もどうぞよろしくお願いします。

住谷 こちらこそ、よろしくお願いします。木下さんがギャラリー専属になられ、一段と充実したギャラリーとなり、友の会会員として、今年も楽しみです。

木下 住谷さんは最近ではキュレーターの役割もされ、2 月には「zakka 暮らしにアート展」をプロデュースされますね。そのコンセプトと企画の意図について教えてください。

住谷 「暮らしにアート」は友の会の設立主旨のひとつでもあり、新九郎さんもコンセプトに掲げています。今年は「もっと暮らしにアートを」と、企画をしてみました。

会場では展示を充実させ、作品の販売をします。ジャンルは絵画・陶芸・写真・ファッション・雑貨などです。作家数にしますと 50 人ほどの作品が一堂に会するという感じです。オリジナリティがあり、作家物で飽きがこないという所をポイントにしています。

木下 日本では「美術館冬の時代」と言われて久しいのですが、小田原は地方都市では珍しく銀座通りだけでも現在 6 ギャラリーがあり、これらを支える地域の方々の文化水準の高さが伺えます。

ギャラリーの役割や文化を支えることについてのお考えを聞かせてください。

住谷 「街なみ再発見展」が一つの好事例です。大人も子供も参加をする。審査もなしで、出品者全員の作品を展示する。6 ギャラリーが同時に会場を提供する。家族や知り合いがワイワイ言いながら鑑賞するという会場は活気があります。地元、ふる里、暮らしを描く、写すなど、まさに「暮らしにアート」と言えます。

友の会の活動も地域に密着した文化イベントの継続と広がりが出来たらと思います。

木下 アートの楽しみ方は多様で自由ですが、作品が真価を発揮するのはやはり生活の中に置かれたときではないかと思います。住谷さんのお宅も絵のある暮らしが素敵ですが、コレクションされたものなのですか。

住谷 二人で気に入った作品を飾っています。決して高価なもの、高名な作家のものというわけではありません。

木下さんのお宅もそうですが、アートが飾られた家にいきますと生活を楽しんでいることが伝わってきますね。

木下 友の会の会員も現在 230 名に増え、通信を配信させていただいています。これからの新九郎への期待と友の会の抱負などお聞かせください。

住谷 引き続き、現代アートの企画や、昨年の新九郎アートフェスティバルのように、若い作家を掘り起こして、作品を観せていただけると嬉しいです。生活に心の豊かさをもたらしてくれるのが、アートの力だと思います。

友の会の皆さまにも、アートをもっと身近に感じ、日常の中で気軽に楽しんでもいただけたらと思います。

木下 ギャラリーで展覧会を観る、作品を購入するというのが、特別のことではなく、もっと気軽に日常に溶け込むようになればいいと思います。住谷さんの存在を私は新しい文化の萌芽と感じています。作家としてのますますの充実と、友の会事務局として本年も新九郎のサポートのお願いをするとともに、豊かな時間を共有していきましょう。本日はありがとうございました。

大漁！小田原井展は1月25日から！

若手イラストレーターによる3回目の作品展は、毎年小田原を切り口とした提案で楽しめます。今回の作品展について作家の若林さんに伺いました。



競作のテーマの打合せの時、小田原の名産品や行事に関連した物が様々出た中で、まず大漁旗を描こうというのが、すんなりと決まりました。漁港がある小田原にちなんだもので、大漁旗自体がイラストだから、色々いじったりアイデアを広げるのもやり易い。次にタイトルをどうしようかと段になって、ふと最近街中でよく見かける「小田原井」という幟のことが頭に浮かび「大漁！小田原井展」というのはどうかと提案しました。あくまで個性豊かな作品展を井に譬えたつもりで。これが語呂が良かったので即決定、ついでに本当に井も作ってしまえ！という事になった次第です。もちろん大漁旗といっても各作家の解釈次第で、意外な物が大漁だったり、大漁旗というフォーマットを借りての表現だったりします。またそれと組になった井の中身も各自趣向をこらしたオブジェです。皆の作品がどんな仕上がりになるかまったく予想がつかず、私自身も今から楽しみです。

12 月の事

●アトリエコネコ作品展は若い人が多く、感性の良さを感じました。小学生から一般の大学に進みながらも描いている人や一旦離れまた始めた人もいて、キャリアの長い基礎がしっかりできている作品が多く、指導力を感じました。アーティストにならなくても、こういう層が増えていくことは、アートファンの拡大になる大変嬉しいことです。

●恒例の新九郎アートフェスティバル。今年は若い作家が増え円熟した落ち着いた感のあるベテランの作品と若いハチ切れる感性の作品がいいハーモニーを奏で新味ある展示になりました。クリスマス音楽の夕べも 50 名を超える方でにぎわい、素敵な演奏とパーティーで今年を締めくくることができました。

●26 日石トラアートのワークショップは、講師広川英夫氏（友の会）の行き届いたご指導で参加者全員見事な虎の置物を作ることができました。創る喜びをより多くの方に体験してもらうことのできるワークショップは、今年も大事に広げていきたい活動の一つです。お気軽に是非ご参加ください。